

# 隙間からの侵入者にご用心



December.2017 vol.96

発行所／  
株式会社環境サービス 技術グループ  
発行人／山本幸弘  
編集人／柳考志・井上富子  
愛知県岩倉市鈴井町中島96番地  
〒482-0035 ☎ 0587-66-6218  
✉ gjyutsubu@fujikankyo.co.jp

今月の虫予報

## Insect Phase Forecast

虫種	発生状況				
	少				多
ユスリカ					
チョウバエ					
キノコバエ					
コオロギ					
カメムシ					

ユスリカなど飛来虫の発生数はいずれも少ない水準になるとみられるが、突発的に暖かい日があれば多数発生することもあるため、天候の状況に注意が必要である。キノコバエなど冬季に増える虫もあるが、夏季のユスリカほどの数は発生しない。越冬場所を求める侵入虫も減少するが、念のため、上旬頃までは注意を。

## 窓・扉の隙間対策 シャットアウトシート

秋が深まると、多くの虫は越冬のため活発な活動をしなくなり、混入や侵入の問題は必然的に減少する。一方でわずかな隙間から建屋内部に入り込み、そこで越冬しようとする虫もいる。今回は隙間から侵入する虫やネズミの対策について取り上げたい。

### 晩秋に増える侵入者たち

寒くなると越冬場所を求めて、建物内に頻りに侵入してくるのがカメムシ類・テントウムシ類である。これらの昆虫は樹皮下や落葉下、朽木中などで集団で越冬することが多いが、建物の物陰もそうした場所に条件が似るためか、越冬場所として好まれることが多い。

また、半野外性であるネズミは冷え込みがきつくなると建物内に侵入することが多くなる。建造物の構造が虫・ネズミの侵入防止を考えて設計・建設されていないことが、侵入を容易にさせている大きな要因である。そのため後からいかに防虫・防鼠構造をつくるかが重要になってくる。

### わずかな隙間が侵入経路

家ネズミと呼ばれる、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミは建物に侵入・定着する習性をもつ。大きさは体長約6〜26cmであるが、通過できる隙間は小さいネズミで1×1.2cmという報告がある。約1cmの隙間があれば侵入してしまうのである。これらの侵入を防ぐためには、まず

外部に接する戸、窓、シャッターに隙間が生じないように隙間対策をする。次にネズミが侵入を試みるのは、排水溝、パイプである。網やふたなどを用い、侵入防止構造に改善する。また、荷物が潜伏して侵入することも、これらが他の部屋に移動できないように各区域ごとに遮断構造を持つことが望まれる。「ネズミの侵入防止は8mmから」といわれるように、8mm以下の隙間にするのが重要である。



ネズミのかじり痕(ラットサイン)。  
＜WILDLIFE IN House and Home.Collins＞



ハツカネズミ。  
＜日本の哺乳類.Gakken＞

### 隙間対策は年中必須

その他の厄介な隙間からの侵入虫としてゴキブリが挙げられる。熱帯起源のチャバネゴキブリやワモンゴキブリは寒さに弱く、冬の潜伏場所は屋内の暖かい場所だけになるので、ベイトか忌避剤の無い薬剤をそこに集中することで

## 防虫用語の基礎知識



### ラットサイン

ラットサインとは、ネズミの姿、死体、鳴き声、走る音、ふん、巣、坑道、かじり跡、足跡、体のこすり跡、ねずみ道、イエダニの発生など、ネズミの存在を示す証拠の総称である。これらの証拠は、ネズミが現在生息しているか、あるいは過去に生息していたことを示すものである。ネズミの侵入口には、体の汚れが付いて黒くなったり、足跡やかじり痕が残っている。ネズミが通ったあとは、糞や尿、壁に黒い線が残っている。壁に沿って走る習性があるため、壁や部屋の隅を探すとよい。

年末の大掃除は普段目につきににくい場所の隙間を確認するよい機会になる。今年には掃除と隙間対策をし、気持ちの良い新年を迎えたいものである。

### 枯れ草に集まる甲虫

秋も深まってくると、昆虫採集に行ってもどうにも成果が上がらないものだし、しかしながら、秋時期の方が採集し易い昆虫もいることにはいる。

秋頃に刈草やわらがまとめて廃棄されたような場所は、時に非常に多くの種類の甲虫を採集することができる。大半は俗に“雑甲虫”と呼ばれ、一般的に人気は無く体長も5mm以下の小さくて茶色の地味な甲虫ばかりではあるが、集めてみると種類も多くなかなか面白いものだ。枯れ草をかき集め、ザルにいれ白い布の上でふるうと様々な生物が布上に落ちてくる。こうして見つかる甲虫の多くは、主にカビを食べていると考えられていて、中には工場などのモニタリングで捕まる種類もいる。

この枯れ草での採集は良いポイントを見つけれれば、極めて多種多様な甲虫を採集できるが、これが意外と難しい。同じ場所でもわずかに数m移動しただけで虫の種類や数に顕著な差が出ることは頻りにあり、場所によってはワラジムシやモリチャバネゴキブリばかりの時もある。また時期も重要で雨が降って湿りすぎてもいけない。結局のところ、やはりカビの有無が重要なのだろう。モニタリングにおいても秋季はカビを食べる虫が増えやすい時期であるが、屋外でも当然それは同じなのである。



非山の刈草。公園内の多くの種類の甲虫が潜んでいた。



枯れ草より採集したチャイロコキノコムシ。工場内のモニタリングでもしばしば捕まる。

本紙への「意見」感想を是非ともお寄せ下さい。発行所宛にメールをください。と、とてもうれしいです。ご意見を取り入れてさせて頂いた方には粗品を進呈します。

安全・安心の  
フジ環境

# 窓・扉の隙間対策、できていますか？

ムシ 隙間風 ホコリ 虫

閉まっても開口してます  
シャットアウトシートで完全防除

1. 高い性能／防虫専用だから完全侵入阻止。
2. 簡単／シートの着脱はとても簡単。
3. 安全・安心／消防法もクリア、低価格。



対策前



対策後



扉用もあります

隙間対策専門



株式会社フジ環境サービス



ISO9001 認証・ISO14001 認証／本社にて適応

本社 〒482-0035 愛知県岩倉市鈴井町中島 96 番地

TEL.0587(66)6218

FAX.0587(37)7768

三河 〒442-0886 愛知県豊川市牛久保駅通 5 丁目 19-2

TEL.0533(86)1835

FAX.0533(86)1734

北陸 〒921-8012 石川県金沢市本江町 9 番地 14 号

TEL.076(287)3971

FAX.076(287)3972

サンバード金沢ビル 202 号